

同じ立場を目指す

「正提案へ」

「笠原小存続を」 署名350人集まる



職人に教える水沼貴裕工務長(中央)＝北本市のエイワ北本工務

「グループ縫製」工程分けて育成早める

「顧客一人ひとりで違うフルオーダーの縫製は難しいが、その分やりがいもある。意欲のある職人は成長も早い」と話している。(松浦新)

5年ほど前には、工務ができたところからの職人が70歳前後になり、仕事を続けられない人がでてきた。ここでもグループ縫製の強みを生かし、若手の採用・育成を進めた。この5年で十数人が入れ替わり、60歳を越えていた平均年齢も10歳以上若返った。

「ター」の職人の世に若返つを見た。縫いしたもつろなど、打ち合わせ外生協たとる。約450が、英国屋によると、ターのストリックにもト

川口できょう・あす 体験できる展示

川口市の地元企業38社が考案した新型コロナウイルスの対策品を一堂に集めて体験できる特設展示コーナーが13、14日に同市上青木3丁目のSKIPシティで開催される

「市産品フェア2020」(市など主催)内に設けられる。コロナ禍では間仕切りや空調、消毒などの対策は不可欠だが、製品の大きさや形状は様々で、用途に合ったものを



展示されている段ボール製の簡易ベッド。飛沫(ひまつ)感染対策として床の上にルーフをつけることもできる＝川口市のSKIPシティ

探し出すのは難しい。一方で、中小の製造業が多い同市では各企業が得意分野を生かした様々な対策製品を考案しているがPR力は弱い。今回の試みは、そうした製品を集めて需要と供給をマッチングさせようというのが狙いだ。

多目的ホール内に設置されたコーナーには入り口にある感染症対策テントをくぐって入る。抗菌作用のある生地できていて野外診療所、検温所などに幅広く使える。会場には自動アルコール噴霧器、後付け可能な空調フィルター、卓上パーティション、マスクなどが並ぶ。

市産業振興課の横野篤課長は「中小企業が多いので小回りがきくのも長所。会場でそれぞれの用途にあうよう交渉もして欲しい」と話している。

入場無料。同日とも午前10時から13日は午後5時、14日は同4時まで。(堤恭太)

川口市に11日、新型コロナウイルスに感染して入院中だった60代の女性が11日に死亡したと発表された。県内の死者は114人になった。12日は県内で新たに75人の感染が発表され、感染者は延べ6570人になった。発表の内訳は県55人、さいたま市11人、川口市4

で、この店関連の感染者は19人になった。さいたま市発表では家庭内感染とみられるのが4人、知人や職場内の接触が原因とみられるのが3人。越谷市発表のうち4人は民間の通所介護施設、40代の女性職員2人と90代の男性利用者2人。施設関係の感染者は14人と

また、さいたま市教委はこれらとは別に、市立小学校勤務の伊奈町の50代の男性教諭の感染を発表した。



◇第44回県アンサンブルコンテスト(12日、県吹奏楽連盟朝日新聞社主催)
▽中学校部 西部地区大会
【企画】川口・青木町教諭

計画税の過徴収が2009年度から19年度までに8件あり、還付金額は454万円だったと発表された。市は12月議会で提出する一般会計補正予算案に還付金を計上する。課税課による宅地地の戸数の間違いや、建て替え時の手続き漏れがあった。来年度の評価替えに向けた作業をしていくと判断したという。

「現金が必要、立て替えてほしい」などと電話があった。信じがたいのは同日午後1時までに回にわたり、自宅近くの路上で長男の上司のお金をかかると計1050万円を手渡した。口座からの高額出金を不審に思った金融機関職員が警察に通報し、被害が露見した。

●さいたまで1060万円詐欺被害 浦和警察は12日、さいたま市中央区の無職女性(89)が1050万円の特殊詐欺被害にあつたと発表した。警によると、女性宅に11日午前9時ごろから数回にわたり、長男をかたる男から「仕事で大事な書類を間違って送ってしまった」「現金が必要、立て替えてほしい」などと電話があった。信じがたいのは同日午後1時までに回にわたり、自宅近くの路上で長男の上司のお金をかかると計1050万円を手渡した。口座からの高額出金を不審に思った金融機関職員が警察に通報し、被害が露見した。

